大仙市立太田南小学校　学校報

あかまつ

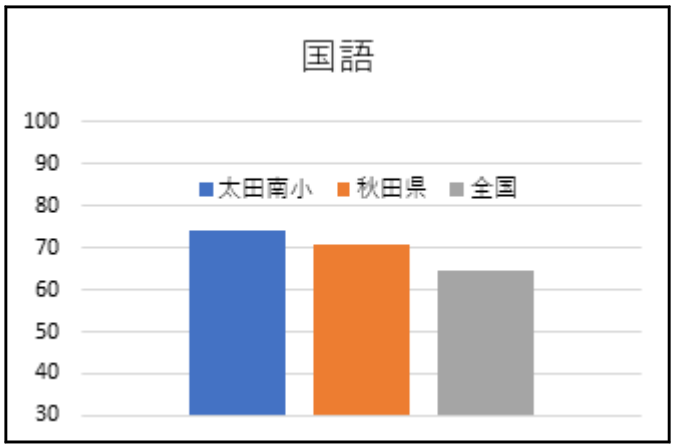
令和３年度
第41号
令和３年10月18日

《学校教育目標》　夢に向かって 本気で チャレンジ！ 笑顔の花さく 南っ子

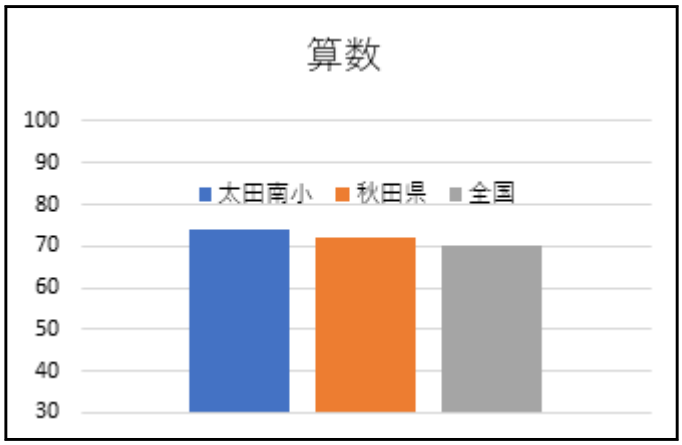
Ｒ３全国学力・学習状況調査の結果について

小学校６年生と中学校３年生を対象にして行われた全国学力・学習状況調査（５月に実施）の結果が公表されております。秋田県はすべての教科で全国の平均正答率を上回り，今回も全国トップ級の成績でした。本校の６年生は，その秋田県の平均正答率を上回る成績を収めました。

少し遅くなりましたが，国語と算数の結果と簡単な分析を載せましたのでご覧ください。（裏面には質問紙の結果と簡単な分析）



国語の平均正答率は，全国を９ポイント，県を３ポイント上回りました。全 14 問中６問は 80 %以上の高い正答率でしたが，「目的に応じ，文章と図表とを結び付けて必要な情報を見つける問題」が 45 %，「目的を意識して中心となる語や文を見つけて要約する問題」が 25 %と低い数値を示しました。全体的に【言葉の特徴や使い方に関する問題】と【話すこと・聞くこと】は概ね満足のいく結果となりましたが，【読むこと】【書くこと】に関して課題がありました。



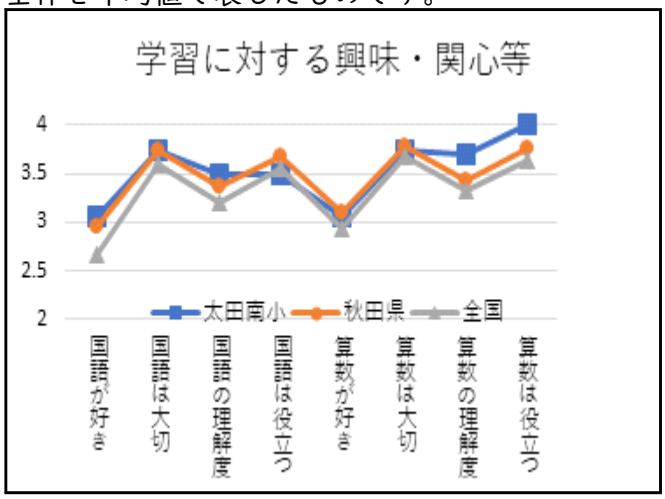
算数の平均正答率は，全国を４ポイント，県を２ポイント上回りました。全 16 問中７問は 80 %以上の高い正答率でしたが，「速さを求める除法の式と商の意味を理解しているかを問う問題」が 40 %，「帯グラフで表された複数のデータを比較し，示された特徴をもった項目とその割合を記述する問題」が 40 %と低い数値を示しました。全体的に【数と計算】と【図形】は概ね満足のいく結果となりましたが，【測定】と【変化と関係】に関して課題がありました。

６年生の授業を見ていると，全員が真剣に学習に向かっていますし，週に２回一人勉強ノートを見せてもらっていますが，勉強の質も量もとても充実しています。今回の結果は，普段から物事に一生懸命取り組む６年生のよさが発揮され，うれしく思っています。

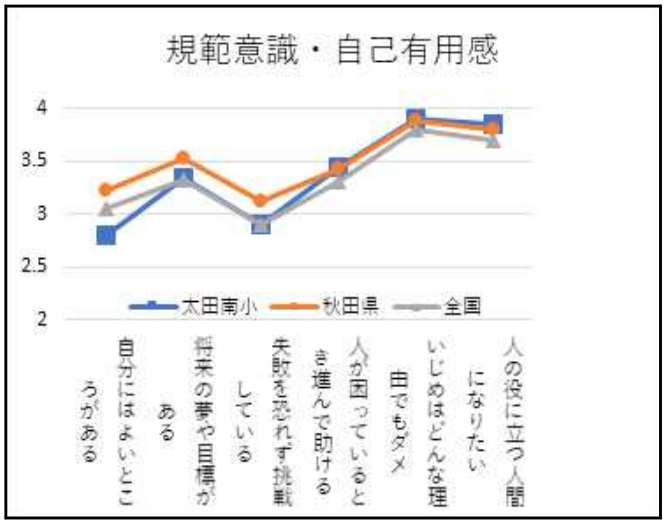
漢字や計算練習は全校テストの取組やそれに向けての一勉ノートのがんばりが表れていると感じます。と同時に，【読む】【書く】【式の意味】【割合の意味】はやはり学校でしっかり指導していく大切さを痛感したところです。また，グラフに表したものはあくまでも平均値で個人差があります。将来の夢の実現に向かって弱点回復のための復習の仕方の指導も必要だと感じました。

引き続き，全国学テの結果をお知らせします。こちらは学習状況や生活状況を見る質問紙（アンケート）の結果です。このアンケートは，大きく分けると【学習に対する興味・関心】【規範意識・自己有用感】【生活習慣・学習習慣】の３観点について，69 の設問を通して学級・学年の傾向を見ようというものです。

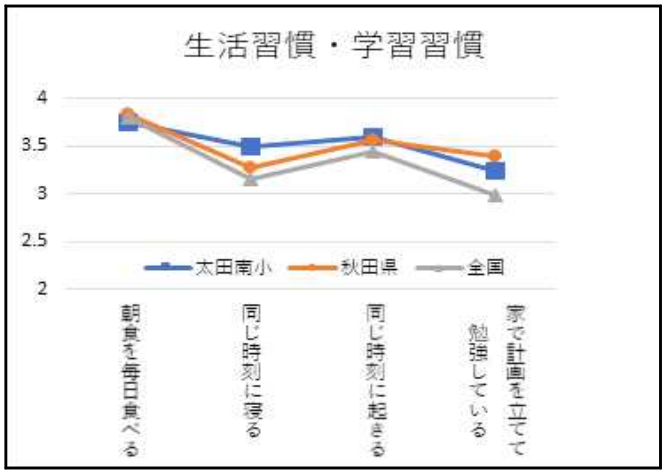
69 問の中で，上述の３観点に関連する主な設問について県・全国と比較したのが下図の折れ線グラフです。これは，設問に対する回答の「当てはまる」を４ﾎﾟｲﾝﾄ，「どちらかといえば当てはまる」を３ﾎﾟｲﾝﾄ，「どちらかといえば当てはまらない」を２ﾎﾟｲﾝﾄ，「当てはまらない」を１ﾎﾟｲﾝﾄとして，全体を平均値で表したものです。



【学習に対する興味・関心】は，この８項目とも３ﾎﾟｲﾝﾄ以上と高い数値となりました。国算ともに「授業内容がよく分かるか」という理解度を問う項目に関して県・全国と比べて高くなっていることが，６年生のよい結果に結びついていると考えます。傾向としては本校も県も全国と似ていますが，国語や算数が「好き」と思えるような学習指導の工夫をもっともっとしていく必要があると感じました。



【規範意識・自己有用感】は，規範意識については高いポイントを示していますが，「自分にはよいところがある」「難しいことでも失敗を恐れず挑戦している」の自己有用感を問う項目の数値が低くなっており，これまで以上に物事に積極的に取り組んだり，自信をもって取り組んだりする姿勢を育てていく必要性を感じています。「成功体験を積んで」「周りから認められること」とともに，「失敗から学ぶこと」「そのチャレンジ精神（本人の頑張りの過程）を褒めてあげること」を大切にしていきます。



【生活習慣・学習習慣】では，生活習慣を問う４項目が，県・全国とほぼ同じような傾向です。規則正しい生活となるようにご家庭の皆様に力添えいただいていることに感謝申し上げます。ここには表しませんでしたが，テレビゲーム（コンピュータゲーム，携帯式のゲーム，携帯電話やスマホを使ったゲームも含む）をしている時間について，月曜から金曜までの平均が２時間以上と答えた子が 65 %でした。あかまつ 31 号でもお知らせしたように，スマホやゲームは，昔と比べて『体力』『視力』『学力』『コミュニケーション能力』を減少させていることが言われております。どうか６年生に限らず，子どもたちの利用の実態を把握していただき，望ましい生活習慣について話し合っていただければと思います。読書時間の減少，新聞を読む時間の減少が顕著なことと，おもて面の国語の【読むこと】とは少なからず関連があるのではないかと感じています。